

報道関係者各位

2021年3月23日

株式会社アストロスケールホールディングス

スペースデブリ問題に取り組むアストロスケール

民間世界初デブリ除去衛星 ELSA-d の打上げ・軌道投入に成功

持続可能な宇宙環境を目指し、スペースデブリ（以下、宇宙ごみ、デブリ）除去サービスに取り組む、株式会社アストロスケールホールディングス（本社：東京都墨田区、創業者兼 CEO 岡田 光信、以下「アストロスケール」）は、日本時間3月22日にカザフスタンバイコヌール宇宙基地から打ち上げた、スペースデブリ除去技術実証衛星「ELSA-d (End-of-Life Services by Astroscale – demonstration)」の軌道投入に成功したことをお知らせします。ELSA-dを搭載したソユーズロケットは15時7分（日本時間）に打ち上げられ、計画通り飛行、約高度約550kmで衛星分離し、衛星から受信したテレメトリにより通信の正常を確認しました。

スペースデブリの捕獲と除去に必要なコア・テクノロジーを初めて軌道上で実証する ELSA-d のミッションは、軌道上サービスを拡大し、将来の世代のために安全で持続可能な宇宙の実現をビジョンとして掲げるアストロスケールにとって重要な一歩となります。ELSA-d は電力状況等のヘルスチェック（健康状態の確認）を完了した後に、技術実証に挑みます。

ELSA-d プロジェクトマネージャーの飯塚清太は、以下のように述べています。

「数年の歳月をかけ設計・開発に携わってきたチーム皆の想いを乗せて、ELSA-d が無事打ち上がり、ロケットからの分離・軌道投入の成功を英国の軌道上サービス管制センターから確認しました。この後は、ELSA-d 搭載機器のチェック等を経て、初期運用フェーズに移行します。」

創業者兼 CEO の岡田光信は、以下のように述べています。

「ELSA-d の打上げ、軌道投入の成功を大変喜ばしく思います。創業以来、幾多もの困難や複雑な課題に直面しましたが、チームが真摯に取り組み、絶え間ない努力と成長を重ねてきた結果と言えるでしょう。ELSA-d が無事ミッションを完遂し、デブリ除去技術を確かなソリューションとして宇宙業界へ提供できるようになることで、宇宙の持続可能性実現への重要な役割を担い、業界全体へ責任ある行動を更に促すことが可能となるでしょう。」

アストロスケールについて

アストロスケールは、宇宙機の安全航行の確保を目指し、次世代へ持続可能な軌道を継承する為、スペースデブリ（宇宙ごみ）除去サービスの開発に取り組む世界初の民間企業です。2013年の創業以来、軌道上で増加し続けるデブリの低減・除去策として、今後打ち上がる人工衛星が寿命を迎えたり恒久故障の際に除去を行う EOL^{※1}サービスや、既存デブリを除去する為の ADR^{※2}サービス、宇宙空間上での宇宙状況把握（SSA^{※3}）、稼働衛星の寿命延長（LEX^{※4}）など軌道上サービスの実現を目指し技術開発を進めてきました。また、長期に渡り安全で持続可能な宇宙環境を目指す為、技術開発に加え、ビジネスモデルの確立、複数の民間企業や団体、行政機関と協働し、宇宙政策やベストプラクティスの策定に努めています。

本社・R&D 拠点の日本をはじめ、シンガポール、英国、米国、イスラエルとグローバルに事業を展開しています。

アストロスケール本社ウェブサイトはこちら：<http://astroscale.com>

製造・開発の様子（写真）はこちら：https://bit.ly/AstroScale_pictures

ELSA-d について詳細はこちら：http://bit.ly/ELSA-d_PressKit_JPN

軌道上サービス管制センターの様子（動画）：<https://youtu.be/OzISoG-AjbM>

【本件に関するお問い合わせ先】

アストロスケール 広報 倉石 英典

E メール：media_asjp@astroscale.com

※1 EOL: End-of-Life の略称

※2 ADR : Active Debris Removal の略称

※3 SSA: Space Situational Awareness の略称

※4 LEX : Life Extension の略称